



おじま ゆき
【長生村長賞】 小嶋 幸

弟へ

春から産婦人科医として働く君に、言っておきたいことがあります。

特殊な家庭環境の中で、私たちは姉と弟というよりも共闘する戦友のように生きてきましたね。

幼かった君を、私は守りきれていたでしょうか。

大人になって、君は私のことを育ての親と言い、「これからは姉ちゃんに恩返しする」とも言ってくれていますが、私にとっての一番の恩返しは、君が幸せでいてくれることに他なりません。

君が産婦人科医になると聞いた時、女性として嬉しい反面、心配な気持ちがありました。

産婦人科医という命と直に向き合う仕事はとても素晴らしいと思います。しかし、とても責任を負う仕事です。

この先、君はたくさんの喜びや感動と出会うでしょう。

そして同じだけたくさんの苦しみや悲しみとも出会うはずです。

時により、君が誰かに非難されることもあるかもしれません。

だけど、忘れないでください。

誰もが君の敵になっても、私は君の味方です。それは変わりません。


君はもう立派な大人なので、甘やかしたりはしません。

ただ、信じています。

どんなことがあってもずっと君を信じている人間がここにいることを忘れないで下さい。

体には気をつけるんよ。また、いつでもご飯食べに来てな。

姉より



(京都府／29歳／図書館アルバイト・似顔絵描き)